

文科系学部におけるOR教育の問題と提言

-----文科系学部教官へのアンケートをもとに-----

01300300 静岡大学人文学部経済学科 *高井英造 TAKAI, Eizo

01109060 東京家政学院筑波女子大学 垣花京子 KAKIHANA, Kyouko

はじめに

ORに関する教育は、一般には理工系の学科目であると考えられているが、実際には非常に多くの大学や短期大学において文科系の学部でOR・経営科学関連の講義が開講されている。1995年版のOR学会名簿に記載された313校の内文科系学部学科に所属されて居られる会員が少なくとも1名はいる学校は194校に上っている。

ORリテラシー研究部会（現在ORレテラシー研究グループ）では、ORの考え方が多くの人に理解され、活用されていくことが重要であるという考えから、ORの考え方や問題の捉え方を専門家でない人たちに教育するための教育方法や教材を検討し、「ORリテラシー」教育のあり方を探ってきた。その中で、部会員の多くを占める文科系学部の教官から、文科系の学生に対する適切な教科書がないことや学生の数学的な素養から見て、いままでの教育方法や考え方では、OR教育が困難であるとの意見が出され、研究部会活動の結果として文科系学生を対象とした教科書を作成することとなった。本発表の中心であるアンケート調査は、文科系の大学学部や短大でのOR教育の現状を調査し、部会員以外の方の意見や問題意識を知ることが文科系学生のためのORテキスト作成のために重要であるとの認識から、部会の研究の一環として実施されたものである。

アンケートは選択と記述式の併用で、先に述べた194校から各校1名の教官に依頼し、30%にあたる59名の方から解答を頂いた。このアンケートの結果の分析についてはオペレーションズ・リサーチ誌6月号において報告したが、今回は追加的な分析結果と、分析結果をふまえてのOR教育についての幾つかの提言について報告する。忙しい中でアンケートにご協力いただいた方々にお礼申し上げると共に、お寄せいただいた貴重なご意見についても発表の中で触れていきたい。

アンケート結果のあらまし

- (1) 教官の多数は理工系学部の出身。
理工系学部 68% (40名)
経営、経済学部 14% (8名)
- (2) 講座名は実に様々である。
94講座名が挙げられている。
ORと付いている講座名 15
ORの特定技法の講座名 14
統計を含む数学系 24
- (3) テキストには決定的なものがない。
アンケートの回答に出てくるテキストは42種類に上る。
テキストを使用 39%
部分的に使用している 10%
自作のプリント利用 30%
テキストとプリントの併用 12%
- (5) パソコンを使った授業は少ない。
使用していない 62%
使用している 38%
- (6) クラス規模は比較的大きい。
30人以下 31%
31から100人 48%
101人以上 21%
- (7) ORを教える意義は考え方と応用。
・論理的、合理的な考えを育てる。
・ORを利用して社会の意志決定ができる。
・ORの有効性を認識し、ORの支持者を増やす
- (8) 授業目標はモデルと考え方。
・問題発見・モデル化におく。
・ORの論理的な考え方の理解におく。
・原理と手法の理解におく。
- (9) 授業には様々な問題点があり工夫をこらしている。
・数学が苦手な学生が多い
・数学の言葉を使わないように、数学を感じさせないように工夫している。
・身の回りの具体例から教えるように工夫している。
・図や表をできるだけ多く使うようにしている。
・パソコンを利用している。

